

平成26年度県立勝田工業高等学校自己評価表

目指す学校像		人間性豊かで、基礎的・基本的な知識と技術・技能を身に付け、新しい時代に主体的に対応できる創造的な能力を備えた、たくましい工業人を育成する。				
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標		達成状況	
＜成果＞ 平成25年度総合工学科として4回目の卒業生を出した。地域の企業等にも総合工学科が認識され70%の卒業生が就職(内定率100%)し、30%の卒業生が進学した。また単位制の教育課程が定着し、魅力ある授業作りが進んだ。生徒全員にシラバスを持たせ、自分の進路の希望に沿った科目の選択を行なっている。「ひたちなか地域ものづくり人材育成委員会」を組織し、地元企業や本校OBによる協力体制も確立してきた。部活動や資格取得も充実しつつあり、各種大会に上位進出する部や上級資格に挑戦し合格している。また、公式試合の応援においても、生徒全員が積極的に参加するなど活発に活動している。 ＜課題＞ 平成20年度から実施された単位制のカリキュラムを更に充実させ、生徒の多様化に対応した教育課程を確立していく必要がある。今後も個に応じた学習指導や生徒指導、系統的で計画的なキャリア教育の充実を図り、生徒の進路希望を叶える活力ある学校づくりを行ってゆく必要がある。		キャリア教育の推進	①地元企業等との連携事業や企業体験学習を拡大・充実させ、確かな学力(生きる力)を身に付けさせ、主体的な進路選択ができるようにする。 ②大学等との連携事業、大学の出前授業、進学補講等の充実を図り、国公立大学への進学を含め希望する大学への合格を目指す。 ③キャリア教育を通して勤労観や職業観の育成を図り、就職希望者の内定率100%達成、進学希望者の合格率100%達成を目指す。		B	
		個性を伸ばす教育の実現	④単位制総合工学科として適切な教育課程の研究と実践に努め、授業規律の確立と基礎学力の定着に努めながら、専門性の深化を目指す。 ⑤基礎資格の合格率アップを目指すとともに、電気工事士や技能検定等の高度な資格取得への合格者を増加させるとともに、ジュニアマイスター取得30名を目指す。 ⑥英語教育を主としながら国際理解教育を幅広く推進・展開し、国際化社会に対応できる人材の育成を図る。		B	
		豊かな心の育成と安全教育の推進	⑦基本的生活習慣を確立させ、規範意識の醸成と問題行動の未然防止を図る。 ⑧施設設備の点検と安全教育を充実させ、学校事故撲滅を目指す。 ⑨ホームルーム活動の活性化と、学校教育全体を通じた道徳教育の推進及びボランティア活動の充実を図り、いじめ問題等の未然防止に努める。		B	
		部活動・特別活動の活性化	⑩部活動への積極的参加を奨励するとともに、生徒の自主的活動の活発化と学校行事への積極的参加を促す。 ⑪特別活動の充実を図り、学校行事等を通して自発的・自治的な態度の育成に努める。		B	
		PTA活動の活性化と地域との連携	⑫開かれた学校づくりを目指し、中学校への出前授業や公開授業を実施するとともに、地域や保護者・中学校等へ情報を発信し、本校の特長をアピールする。 ⑬PTA行事等の保護者への周知を図り、PTA活動の活性化のための具体的な方策を検討する。		B	
評価項目		具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題
教	国語	基礎学力の向上を図る。	社会人として必要な国語常識を身につけさせるために、教科書だけでなくテキストを積極的に活用する。また、各学年で課外や補講などを実施し、丁寧な指導支援を行う。	①②	B	・言語活動を充実させ、表現力・読解力を身につけさせる授業を検討していく。
			授業でのルールをしっかりと身につけさせるとともにノート等を定期的に点検し、授業に対するしっかりとした取り組みを習慣づけさせる。	⑦	A	
		授業の改善を目指すとともに、その研鑽に努める。	担当者全員が授業を公開し指導方法や内容について研究協議を行い、授業の充実と改善に取り組むとともに、各種研修会等に参加し、自己研鑽に努める。	③⑪	A	
科	地理歴史	基礎学力の向上を図る。	授業を受けるマナーを向上させ、基礎基本の学力の習得を図る。	④⑦	A	・基礎基本の充実のため教科内での検討を深める
			学習ノートを定期的に確認する。	④	A	
			学習内容の理解が不十分な場合は、補習や課題など計画的な指導を行う。	④	B	
		指導方法の工夫と研究を行う。	学習意欲を高める指導を工夫する。	④	A	
			分かる授業のための指導を工夫する。	④	A	
			教材や資料を積極的に活用する。	④	A	
			IT機器を必要に応じて積極的に活用する。	④	B	

教科	公民	基礎学力の向上を図る。	授業を受けるマナーを向上させ、基礎基本の学力の習得を図る。	⑦	B	B	・学習内容の深化のため教科内での検討をすすめる
			学習ノートを定期的に確認する。	④	A		
			学習内容の理解が不十分な場合は、補習や課題など計画的な指導を行う。	④	B		
		指導方法の工夫と研究を行う。	学習意欲を高める指導を工夫する。	④	B		
			教材や資料を積極的に活用する。	④	A		
			IT機器を必要に応じて積極的に活用する。	④	B		
	数学	基礎学力の向上を図る。	基礎学力が定着していない者や成績不振者に対して、学習意欲の向上を助けるため補習を行う。	④	A	B	・基礎学力の定着と進学を目指す生徒への学力向上のための指導を継続して実施する。
			学習内容の定着のため、小テストを利用し学習の理解度を把握する。	④	B		
			机間巡視を通して、学習の遅れがちな生徒に対して説明を行う。	④	B		
		進路希望に応じた学力の向上を図る。	大学進学等を希望する生徒のために、課外等を実施する。	②	B		
	理科	基礎学力の向上を図る。	基礎学力の向上のために問題演習や小テストを実施し、理解度を把握しながら授業を進める。	④	B	B	・基礎学力の定着のために教授方法や進度について教科内で引き続き検討する。
		理科に対する興味・関心を深めさせる。	学習内容と日常生活の関連の説明や新聞記事の利用、演示実験の実施などを通し理科に対する興味・関心を深めさせる。	④	B		
		生徒が理解しやすい授業への改善に努める。	授業内容・方法について担当者間で協議を行う。	④	A		
	体育	基礎体力の向上を図る。	年間を通じ授業の中で、トレーニング・補強運動を継続的に行う。	④	B	B	・体力テストやマラソン大会へ向けた授業の取り組みは、例年通りよくできている。球技選択の授業においてもっと生徒達が自主的かつ計画的に授業に取り組める指導を検討し充実させたい。
			体力テストでの目標設定を明確にし、意欲的に取り組ませる。運動量をできる限り確保し体力の向上を図る。	④	A		
		生涯を通じて運動に親しんでいく能力や体力を育てる。	球技において種目を選択させ、生徒達で練習計画を立てて競技を進める能力を身に付けさせる。競技特性を理解し、取り組みを通して協力する態度を養う。	④⑨	B		
		生涯を通じて健康な生活を送ることができる資質や能力を育てる。	保健ノートを定期的に提出させ点検し、健康についての理解を深めさせる。	④⑨	B		
	美術	制作の楽しさや表現の喜びを味わい、豊かな感性をつちかう。	個別の指導を充実させ、基礎的な技能を習得させる。	④	B	B	・生徒が落ち着いて授業に臨み、向上心をもって学習に取り組むことが出来るような指導を検討したい。
			鑑賞教育を充実させる。	④	A		
		用具・道具を大切に扱う気持ちを高める。	学習環境の整備に努め、使用した道具の管理に責任をもたせる。	⑧	B		

庶務	PTA総会等各種行事の連絡を、PTA会員やPTA役員に対し確実に言い、連携を密にする。	できるだけ早い時期に、PTA総会等各種行事の連絡を確実にPTA会員やPTA役員に対し言い、各種行事等への参加率を高める。	⑬	B	B	今年度初めて総会次に「部活動保護者懇談会」を実施した。特に1年生の保護者には好評であったので、次年度も継続したい。
		PTAの広報紙を通して、学校の教育活動やPTA活動を昨年よりもさらに工夫してPRしていきたい。	⑫	B		
学習指導	基礎学力の向上。	基礎学力不足の生徒に対し補習等を実施し、学力の底上げをはかる。	④	B	B	・全生徒の基礎学力の向上を図る。 ・進学課外を充実させ、大学受験者の学力向上を図る。 ・各種資格取得の受験者数の増加と合格率のアップを図る。 ・選択科目を検討する必要がある。 ・出前授業を精選し、参加者を増やす。
	選択制を生かした学習意欲向上。	保護者との連携を密にし、生徒に卒業後の進路を考えさせ、その進路につながる選択科目を自ら選ばせることで、学習に対しての意欲を高める。	④	B		
	資格取得の推進。	関係部署と緊密な連携をとり、顕彰制度の利用により資格取得への意欲を高める。	⑤	B		
特別活動	生徒会の自主的な活動を促進させる。	生徒会が中心となり各種行事を行い、自主的・積極的に企画運営できるように努める。また、計画的・効率的な行事の遂行につとめる。	⑧⑨⑪	A	B	学校行事に自主的かつ積極的に参加できるように指導を継続したい。さらに多くの生徒の部活動参加を勧めたい。
	ホームルーム活動を活性化させる。	年間計画に基づき各ホームルームの活性化を図るとともに一層具体的な活動をするように努力する。また各分掌からのLHRに反映し効率的なLHRを展開をする。	⑧⑨	B		
	部活動への積極的参加を促す。	各部活動資料を活用し、実演などを取り入れたPRを行う。また、部活動参加率が全生徒の70%以上になることをめざし活発な部活動およびレベルアップを目指す。	⑩	B		
生徒指導	基本的な生活習慣と規範意識を確立させる。	基本的な授業態度の育成を図り、学習習慣の確立を図り、遅刻減少を図る。(遅刻カードの利用)	⑦	B	B	・引き続き頭髪服装検査を全職員で行い、規範意識の高揚を図る。(担当者だけの負担とならないように指導の方法を検討) ・立哨指導や交通講話を利用し、交通マナーの向上に努めたが、自転車の交通事故が15件と多く出た。交通安全に対する啓発を図る。 ・心の教育を進めるために、カウンセラーとの協力体制の継続。 ・学校内での盗難や物が壊される問題、また授業に集中して取り組むことのできない生徒の数、さらにはSNS(LINE等)でのトラブルが増加傾向にある。携帯電話の使い方について検討が必要(制限を設定)。
		登校指導・職員立哨・巡視(朝・昼休み)を1日2名で通年実施する。また、定期考査中の校外巡視を実施する。	⑦	A		
		HRにおける交通安全教育、交通講話(外部講師)・バイク指導、自転車点検等の実施により交通マナーやルールを守る心を育て、命の大切さを呼びかける。	⑦⑨	B		
		薬物乱用防止教室を10月に実施する。	⑦	B		
	工業人として清潔な頭髪服装容儀等における規範意識の高揚を図る。	全職員で服装容儀等における規範意識の高揚を図る。	⑦	A		
	学校教育全体を通した道徳教育を推進する。	心の教育を進め、他人を思いやる豊かな心の醸成に努める。また、いじめ防止および早期発見のため「生活アンケート」を利用し生徒への実態把握に努める。	⑨	A		
		各種行事を通した道徳教育を適切に推進する。	⑨	B		

進路指導	望ましい職業観・勤労観を育成する。	学年と連携し1年次より計画的な進路指導を行い、自己の能力・適性を生かし望ましい職業観を育成する。	①②③	B	B	・学年と連携しLHR等の時間を利用し早い時期からのキャリア教育の実施を図る。 ・インターンシップの充実 ・1年次からの進路資料の活用 ・地元企業との情報交換 ・全職員による面接指導の継続
		インターンシップ(就業体験)などを通して、職業観・勤労観の形成に努める。	①②③	B		
	生徒1人ひとりの進路希望に応じた進路指導の充実を図る。	企業への求人要請を進めるとともにそれぞれの企業が求める人材の的確な把握に努め、就職希望者の合格内定率100%を目指す。	②③	A		
		進学希望者が学部学科を適切に選択できるよう大学・専門学校との情報交換を進める。	②	B		
		3学年との連絡を密にし、保護者会や三者面談で進路に関する情報を積極的に提供する。	①②③	A		
	地域との連携を深め、地域が求める人材育成を図る。	ひたちなか商工会議所やひたちなかテクノセンター等との連携を図り、企業が求める人材を育成するとともに、就職時のミスマッチの解消や早期離職の防止に努める。	①	B		
保健指導	危険防止と環境整備のために清掃活動や校内安全点検を継続実施する。	環境整備委員会を中心に校内美化に取り組む。また安全点検表を利用して、清掃分担ごとに点検を行い、改善すべき場所がある場合には迅速に対応する。	⑧	B	B	校内の安全と衛生に関して取り組み、充実した保健指導の活動を図りたい。
	生命に関する教育の充実。	全学年を対象に、学校医による講話を実施する。1年生を対象に、性教育・AED講習等、専門の講師を迎えて実施する。	⑧	A		
	心身ともに健康であるための保健情報広報の充実。	衛生や健康に関して生徒に知らせたい情報をわかりやすく伝えるために、「保健だより」等を通して広報活動に努める。	⑧	B		
図書	情報提供サービスの向上と充実を図る。	レファレンスサービス、リクエスト予約サービスの充実に努める。	④⑤	B	B	・定期購読新聞の種類や月刊誌の検討 ・店頭選書での購入図書における種類や内容の見直し ・書庫の整理 ・体育館の放送機材の検討 ・読み聞かせ会の時期について検討
		生徒の知的好奇心と興味を抱かせる書籍の選定と購入に努める。	④⑤	A		
	図書委員会活動と行事の充実を図る。	図書委員会活動を通じて図書館とクラスのパイプ役としての意識を高める。	⑨	A		
		読み聞かせ体験を通じた幼稚園との交流により社会性を学ぶ。	⑪⑫	A		
		読書会や研修会、芸術鑑賞会等の行事の充実に努める。	⑩⑪	B		
	施設の有効利用と環境整備の充実を図る。	自学自習の場としての図書館の利用を促進する。	①②③	A		
1年次		利用簿等の活用により、授業・LHR等で視聴覚室の利用促進を図る。	④⑨	B	B	・進路選択の充実を検討 ・朝学習の検討
	協調性や他人を思いやる豊かな心を育てる。	積極的に学校行事や学級活動に参加させ、協調性や思いやりを身に付けさせ、責任ある行動がとれるようにする。	⑨⑪	B		
	基礎的基本的な知識・技術技能を身に付けさせる。	真摯な態度で授業を受けさせ、提出物の期限を守らせる。資格検定試験についても、意欲的に取り組ませる。	③④	A		
	基本的生活習慣の確立と健全な高校生活を送らせる。	自主的に挨拶ができるようにする。身近なルールやマナーを守らせ、安全で安心な高校生活を送らせる。	⑦⑨	B		

2年次	健康管理に心がけ、何ごとにも全力で取り組むことのできる意欲と体力を育成する。	規則正しい生活ができるように高校生としての自覚を持たせ、規範意識の向上に努める。また、社会的信頼の大切さを知らせる。	⑦	B	B	・基本的生活習慣、基礎学力をしつかりと身につけさせる。 ・自己実現を目指しながら、社会人になるための意識向上を図り、進路決定につなげる。
		保護者と連携を取りながら、高校生活の安全を最優先させる。	⑧	B		
	将来を見通し、高校生活の中で得られる知識・技術・技能の習得に努めるとともに、豊かな社会性を身につけさせる。	授業に真剣に取り組む基礎学力を身に付けさせ、知識・技術・技能の習得に努めさせる。	④⑤	C		
		部活や学校行事への積極的な参加を呼びかけ、学校やクラスへの帰属意識を持たせる。	⑨⑩ ⑪	B		
		インターンシップを通して職業意識を持たせるとともに将来に向けての準備を始めさせる。	①③	C		
3年次	1人1人の適性を踏まえた上で、具体的な進路目標を現実のものとしていく。	進路指導部と連携し、社会の現状を把握するとともに、昨年度の適性検査をもとに、自分自身の適性を冷静に判断させ、生徒の能力・適正に応じた進路指導を推し進める。	①② ⑤	B	B	・7月の水戸公共職業安定所主催の外部講師による進路ガイダンスの面接指導は生徒の刺激になった。 ・四大進学への推薦・一般受験の対応は個別してきたが、全体で具体的指導が支援できる体制が望ましい。 ・生徒の進路に関しては現実を把握させ適性・能力にあった進路先を決める必要がある。 ・10月に「就職内定者による1年生への講演会」を各クラスで行った。3年生にとっては人前で話す良い機会であり、3年生自身も話をしたいという者がいる。1年生には自身の進路を考える良い機会となった。 ・1年生2年生に多くの先生方から機会ある毎に就職状況についても説明することで意識の高揚をはかれると思われる。
		保護者と密なる連携を取りながら、学校生活の安全を最優先させ、きめ細かい助言をしていく。	⑧	A		
		授業に真剣に取り組むことにより、知識・技術・技能のさらなる習得に努めさせる。また、基礎学力診断テストを通じて基礎力の充実を図る。	③④	B		
	ひとりの人間としての社会常識を身に付けさせることはもちろんのこと、他人を思いやる心を育てる。また必要に応じて我慢強さと忍耐力を発揮できるようなたくましさ育成する。	保護者との連携を取りながら、基本的生活習慣の完成をめざす。	⑦	A		
		校則や公衆道徳を尊重し、進んで守ることにより、社会規範意識の向上を図る。	⑦⑨	B		
		挨拶を励行し、他人への思いやりを忘れない心をさらに育てる。	⑨	A		
学校運営	豊かな心の教育の充実を図る。	道徳教育や生徒指導を通して、基本的生活習慣を確立し、規範意識を高めるとともに、いじめなど問題行動の未然防止に努める。	⑦⑨	B	B	・「道徳」の授業や立哨指導、服装指導等を通して生徒の規範意識を高め、いじめなど問題行動の未然防止に努めることができた。 ・体験教室、体験学習、各種の地域イベント等を通して地域小中学校との連携を図ることができた。 ・商工会議所や地元企業との連携を図り、インターンシップ、工業現場実習、企業見学会等を実施することができた。 ・国際理解教育について充実を図る必要がある。
	情報教育と国際理解教育の推進を図る。	授業や各種行事を通じて情報教育と国際理解教育を積極的に推進する。	④⑥	B		
	地域の中学校との連携を図る。	地域の中学校との交流事業や広報活動を通じて中学校との連携を図る。	⑪	A		
	地元企業や大学等との連携を推進する。	地元企業や大学等との連携を更に推進し、進路指導・キャリア教育の充実を図る。	①② ③	A		

※評価基準: A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない